

第3章 本市商工業の将来像と展開シナリオ

1. 本市商工業の目指す将来像

本市商工業を取り巻く社会経済情勢の変化や本市商工業が取り組むべき主な課題を踏まえ、本市商工業の将来像を以下のとおり設定します。

<目指す将来像(施策目標)>

多彩な“人財”が活躍し、持続可能な経済活動が展開されるまち・かごしま

本市商工業の将来像の実現に向けて、本市商工業を振興する基本シナリオとして、以下を設定します。

基本シナリオ

「稼ぐ」鹿児島市商工業へ

本市のひと・企業が“熱”をもって躍動し続ける状態を目指す

「稼ぐ」ことは、本市の持続可能な経済活動の礎となるものであり、私たちが安定したより豊かな生活を営むために欠かせない活動です。人口減少・少子高齢化が進み、経済規模が縮小していくことが危惧される状況の下、本市企業の収益を確保し、本市で働くひとの収入を確保する必要があります。

同時に、「稼ぐ」ことは、かごしまにおける自らの経済的活動に高い価値を生み出し、その高い価値が広く認知され、提供する商品やサービスが社会から求められる、より豊かな社会の実現に寄与するということです。働くひと(人財)一人ひとりが、かごしまにおける自らの経済的活動に誇り・やりがいを感じながら、社会の変化に応じて自らの取組を柔軟に変化させていく必要があります。

また、社会の変化を的確に捉え、自らの取組を柔軟に変化させていくためには、新たな気づきや発見、自らの意識の触発、新たな挑戦・行動といったエネルギー(=“熱”)が必要です。さまざまな交流・連携を通じて、ひと・企業の“熱”の度合い(=“熱度”)を高めていくことが「稼ぐ」ことの礎となります。

➡ どのように「稼ぐ」か？（「稼ぐ」ための大切な視点）

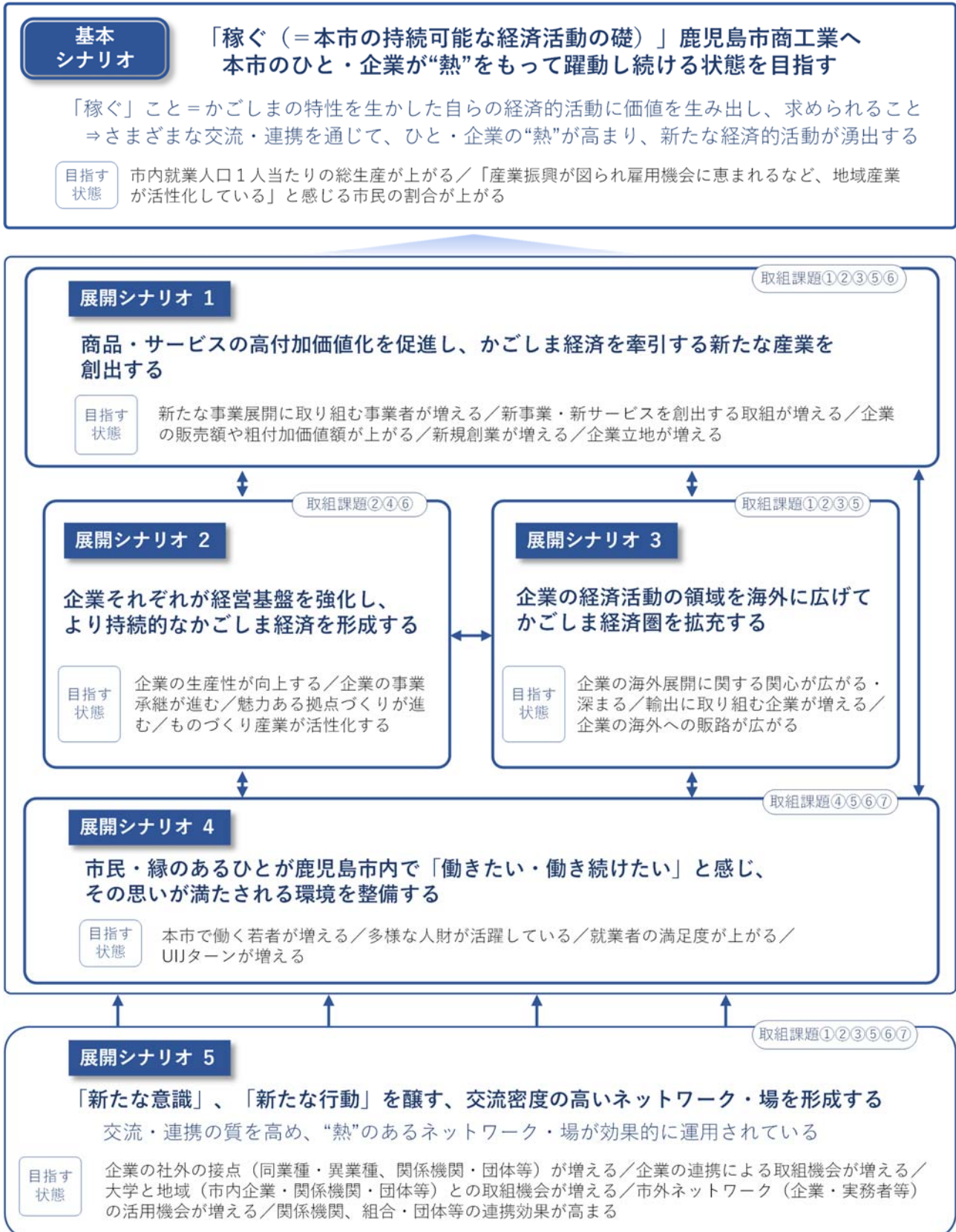
- ① 商品・サービスの高付加価値化を図る、新たな産業を創出することで売上・収益を上げる
 - ② 経営基盤を強化することで、収益を上げる、事業の持続性を高める
 - ③ 経済活動の領域を海外に広げることで、売上・収益を上げる
 - ④ 働きやすい環境を向上させ、ひとの活躍機会を増やすことで、事業の持続性・活力を高める
- ▲
- ⑤ 上記①～④のために、さまざまな交流・連携を通じて、ひと・企業の“熱度”を高める

▶▶▶ 基本シナリオ:「稼ぐ」鹿児島市商工業の主要指標

基本シナリオ主要指標		現況(基準年)		目標(R13)	算出方法
主要指標 ①	市内就業人口1人当たりの総生産	6,534 千円 (H29)	➡	7,809 千円	鹿児島市統計書
主要指標 ②	「産業振興が図られ雇用機会に恵まれるなど、地域産業が活性化している」と感じる市民の割合	13.5% (R3)	➡	50.0%	市民意識 アンケート調査

2. 本市商工業振興の展開シナリオと施策の柱

基本シナリオは、以下の5つの展開シナリオにより構成します。各展開シナリオは、相互作用の関係にあり、それぞれの展開シナリオの連動を高めていくことを意識した施策を展開します。



展開シナリオ 1

商品・サービスの高付加価値化を促進し、
かごしま経済を牽引する新たな産業を創出する

取組課題①②③⑤⑥

かごしまの商品・サービスは、その価値を高めきれていない、伝えきれていないため、しっかりと稼げていない状況があります。

かごしまの地域資源や地域特性を生かして、特性・差別化要因等を磨き上げ、かごしまならではの付加価値の高い商品・サービスが継続的に生み出され、かごしま経済を牽引する新たな産業が創出される状態を目指します。

施策の柱①

新たな産業の創出

~かごしま経済の活力を高める
事業の高付加価値化と新産業の創出

目指す状態

- 新たな事業展開に取り組む事業者が増える
- 新事業・新サービスを創出する取組が増える
- 企業の販売額や粗付加価値額が上がる
- 新規創業が増える
- 企業立地が増える

展開シナリオ 2

企業それぞれが経営基盤を強化し、
より持続的なかごしま経済を形成する

取組課題②④⑥

人口減少・少子高齢化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による大きな社会動態の変化により、企業のさまざまな環境変化への対応力が問われています。企業それぞれが自社の経営資源を捉え直し、限られた資源を効果的に生かしながら、より効率的で生産性の高い事業活動を展開して経営の安定化を促進するとともに、魅力ある拠点づくりやものづくりの振興を図り、かごしま全体の経済活動が円滑に継承・発展することを目指します。

施策の柱②

地域を支える
産業の成長促進

~かごしま経済の持続性を高める
経営基盤の強化

目指す状態

- 企業の生産性が向上する
- 企業の事業承継が進む
- 魅力ある拠点づくりが進む
- ものづくり産業が活性化する

展開シナリオ 3

企業の経済活動の領域を海外に広げてかごしま経済圏を拡充する

取組課題①②③⑤

今後、人口減少が進行することで、本市の需要が減少し、市場規模が徐々に縮小していくことが予想されます。限られた市内・国内市場のみならず、広く海外にも目を向けて、本市の経済圏域を拡充していく必要があります。海外市場の動向やニーズを的確に把握しながら、競争力・付加価値の高いかごしまの商品・サービスの販路が海外に広がっていく状態を目指します。

施策の柱③

海外展開の促進

～かごしま経済の海外市場における存在感の発揮

目指す状態

- 企業の海外展開に関する関心が広がる・深まる
- 輸出に取り組む企業が増える
- 企業の海外への販路が広がる

展開シナリオ 4

市民・縁のあるひとが鹿児島市内で「働きたい・働きたい」と感じ、その思いが満たされる環境を整備する

取組課題④⑤⑥⑦

人口が減少する中において、本市の経済を担い、支え、関わる多様なひと（「人財」）が持続的に根差すこと、増えることが重要です。鹿児島に愛着・誇りを持つ市民（企業や大学等含む）や、市外の本市出身者、本市と関係を有する企業等の“ひと（想い）”を大切に、そのひとたちが本市で「働きたい・働きたい」と思える状況を目指します。

施策の柱④

魅力ある就業環境と担い手の確保

～かごしま経済を担う多彩な人財の活躍促進

目指す状態

- 本市で働く若者が増える
- 多様な人財が活躍している
- 就業者の満足度が上がる
- UIJ ターンが増える

展開シナリオ 5

「新たな意識」、「新たな行動」を醸す、 交流密度の高いネットワーク・場を形成する

取組課題①②③⑤⑥⑦

前述の展開シナリオ1～4を具現化するためには、ひと・企業の“熱”を高める効果的な交流・連携が必要になります。交流・連携に関する既存のネットワークも効果的に活用・連動しながら、かごしまのひと・企業の“熱”が交わり、高まり、「新たな意識」や「新たな行動」を醸す、質の高い交流・連携のネットワーク・場が運営されている状態を目指します。

＜4つの施策の柱を推進する環境基盤の整備・運営＞
かごしま経済の“熱度”を高める交流・連携密度の向上

目指す状態

- 企業の社外の接点(同業種・異業種、関係機関・団体等)が増える
- 企業の連携による取組機会が増える
- 大学と地域(市内企業・関係機関・団体等)との取組機会が増える
- 市外ネットワーク(企業・実務者等)の活用機会が増える
- 関係機関、組合・団体等の連携効果が高まる